

# 医療行動科学7

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	伊藤 孝訓 (歯科総合診療学)

学修目標 (GIO)	「診断する」とは、患者に付随している異常な状態を病態生理学的立場のみならず、心理的、社会的要因を含む広い立場から、現状で可能な診断情報を収集し、総合的な(病態、臨床疫学的な確率データ、患者の意向・価値観、医師と患者の心理など)判断に基づいて最適な医療を行うための根拠を得る過程(プロセス)であることを理解する。 「歯科総合診療学」とは、歯科医学の細分化傾向に対して口腔疾患を総合的に診るとともに、患者の全身機能との関連、生活習慣や環境などの背景をも配慮し、歯科のcommon diseaseを対象にプライマリ・ケアとして治療と継続的なフォローを包括的に行う学問であることを理解する。
担当教員	伊藤 孝訓、多田 充裕、青木 伸一郎、内田 貴之、遠藤 弘康、岡本 康裕、※大山 篤
教科書	「歯科医療面接アートとサイエンス」 伊藤孝訓編著 砂書房(改訂版)
参考図書	「患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際」 伊藤孝訓, 寺中敏夫編集 クインテッセンス出版 「イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー①患者の診かたと歯科診療」 黒崎紀正他編集 医歯薬出版 「臨床医になるための必修アイテム」 医療面接から臨床判断学まで 竹村洋典 南江堂 「臨床入門 臨床実習の手引き」 福井次矢 医学書院 「口腔診断学」 下里常弘他 医学書院 「歯科口腔診断ハンドブック」 増田 屯, 藤澤盛一郎 医学情報社 「歯科医のための医療コーチング入門」 岸 英光 砂書房
実習器材	なし
評価方法 (EV)	講義：授業時間内に行う平常試験(60%)、制作物・体験実習レポート(30%)、授講態度(10%)をもって総合評価(最終評価)する。 平常試験の結果に応じて、補講または再試験等の措置を講じることがある。 受講態度は出席することが前提として与えられ、講義・演習参加への積極性を評価対象とする。 授業時間数の1/5以上を欠席した場合、成績評価は0~60点とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	医療の本質は不確実性にあるといわれており、この問題に対処する方法として、本講義は歯科医師として眼前の患者さんに最良な治療やマネジメントが奏功できるように、臨床各科の知識を頭の中で整理統合し、再編成できる考える力を育てる学問であり、臨床において患者に対応する際に即役立つことなので、興味を抱いて講義に参加して欲しい。 E-mail(shindan.md.ml @ nihon-u.ac.jp)による質問を受け付ける。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/07 (木) 3時限 13:00~14:30	ガイダンス 1) 医療者の態度 2) 診断学とは 3) 医療の不確実性 4) 患者医師関係	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、医療面接と臨床判断学に関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 期待される医師の態度を説明できる。 2. 口腔診断学と歯科総合診療学を説明できる。 3. 総合診療学の歯科臨床における役割を説明できる。  【準備学修項目】 医療者としてふさわしい態度について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 医療面接 イ 面接のマナー a 身だしなみ b 挨拶、態度 c 会話のマナー、言葉遣い  【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-3 歯科医師の責務 *①患者との信頼関係を築くことができる。	伊藤 孝訓
2016/04/14 (木) 3時限 13:00~14:30	臨床判断学 (1) 1) 臨床 (診断) 推論 2) 診断プロセス 3) 医学判断学	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科疾患の診断思考に関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床情報には不確実性要素を含み、不確実性下で臨床判断を行うことを説明できる。 2. 基本的な診断論理を説明できる。 3. 意思決定の方法について説明できる。	伊藤 孝訓

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/14 (木) 3時限 13:00～14:30	臨床判断学 (1) 1) 臨床 (診断) 推論 2) 診断プロセス 3) 医学判断学	4. 診断プロセス (診断情報の収集・分析・決定) について列挙し説明できる。 5. 医学判断学について説明できる。  【準備学修項目】 基本的な問題解決法について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 臨床判断の基本 ア 根拠に基づいた医療 <EBM> a 意義  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑫基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。	伊藤 孝訓
2016/04/21 (木) 3時限 13:00～14:30	臨床判断学 (2) 1) EBM 2) 決断分析の実際	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、EBMに関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 診断テストを使うことができる。 2. EBMの概念を説明できる。 3. 臨床判断分析の手順を説明できる。 4. Decision tree による実際例を説明できる。 5. NBMの概念を説明できる。  【準備学修項目】 診断について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 臨床判断の基本 ア 根拠に基づいた医療 <EBM> a 意義  【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-1 医療面接 ⑧患者に診断結果と治療方針を説明できる。	内田 貴之
2016/04/28 (木) 3時限 13:00～14:30	医師の心理 1) 誤診 2) 医療過誤最少化	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、医療過誤が発生する要因に関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 経験則による判断に内在する問題やバイアスを説明できる。 2. 臨床判断時の誤診を導く心理特性について説明できる。 3. 診断プロセスの各ステップに起こるバイアスを説明できる。 4. ヒューマンエラーについて説明できる。 5. 歯科の医療過誤訴訟の特性について説明できる。 6. クリティカルパスについて説明できる。  【準備学修項目】 医療過誤について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 a 医療事故と医療過誤  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 b 医療事故の発生要因 エ 医療裁判 a 医事紛争、賠償  【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 *②医療上の事故等 (インシデント (ヒヤリハット)、医療過誤等を含む) の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。	伊藤 孝訓

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/12 (木) 3時限 13:00~14:30	患者の心理 1) 歯科患者の特異性 2) 心理的配慮	<p>【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科患者の心理特性に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科患者の特異的な心理状況について説明できる。 2. 患者対応時の注意点を列挙できる。 3. 患者の望む治療者 (歯科医師) の人間像を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 歯科患者の心理状態について説明できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 e 患者・障害者の心理と態度</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *⑩診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。</p>	多田 充裕
2016/05/19 (木) 3時限 13:00~14:30	医療面接 (1)	<p>【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、医療面接の意義と目的に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 医療面接の目的を説明できる。 2. 医療面接で行う具体的な内容を説明できる。 3. 情報の伝達の難しさを説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 一般的なコミュニケーションの基礎について説明できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 イ 面接のマナー d コミュニケーションの進め方 (質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 医療面接 イ 面接のマナー c 会話のマナー、言葉遣い</p> <p>【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-1 医療面接 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p>	大山 篤
2016/05/26 (木) 3時限 13:00~14:30	医療面接 (2) 1) 医療面接の意義 2) 会話のマナー 3) コミュニケーションの進め方 4) 感情面への対応	<p>【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、効果的な会話に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 医療面接の4要素 (尋ねる、聴く、答える、観察する) について説明できる。 2. コミュニケーションスキルを列挙し説明できる。 3. 非言語的コミュニケーションを説明できる。 4. 基本的な医療者の態度について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 医療現場での面接の大切さを説明できる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ア 意義, 目的 a 医療情報の収集・提供</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ア 意義, 目的 b 患者歯科医師関係の確立 c 患者の指導、動機付け、治療への参加</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	青木 伸一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/26 (木) 3時限 13:00～14:30	医療面接 (2) 1) 医療面接の意義 2) 会話のマナー 3) コミュニケーションの進め方 4) 感情面への対応	A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-2) 医療面接 *①医療面接の役割を説明できる。 ②主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。 ③患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。	青木 伸一郎
2016/06/02 (木) 3時限 13:00～14:30	平常試験 1	【学修方略 (L S)】 その他  【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室	伊藤 孝訓 内田 貴之
2016/06/09 (木) 3時限 13:00～14:30	医療面接 (3) 1) OSCE 2) 患者からの情報収集 3) 患者- 歯科医師コミュニケーション 4) 患者教育	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、患者から効率的に情報収集する仕方を修得する。  【行動目標 (S B O s)】 1. 聴く態度の重要性について説明できる。 2. 患者とのよいラポールを確立するための方法を説明できる。 3. 患者教育のためのコーチングスキルを説明できる。 4. OSCE (試験) の実施の仕方を概説できる。  【準備学修項目】 OSCE (試験) の意味を概説できる。  【学修方略 (L S)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ウ 病歴聴取 a 主訴  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ウ 病歴聴取 b 現病歴 d 既往歴 f 患者背景 (生活習慣、喫煙歴、社会歴)  【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-7 対人関係能力 A-7-2) 医療面接 ④患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。 ⑤患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。 *⑦患者のプライバシーに配慮できる。	青木 伸一郎
2016/06/16 (木) 3時限 13:00～14:30	医療面接 (4) 1) ロールプレイ 2) 会話分析 (トランスクリプト)	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、効果的な会話スキルを学ぶ会話分析に関する知識を修得する。  【行動目標 (S B O s)】 1. ロールプレイの目的や方法を説明できる。 2. 信頼関係を確立するための医療面接スキルを説明できる。 3. トランスクリプトの目的や方法を説明できる。  【準備学修項目】 医療におけるコミュニケーションの重要性について説明できる。  【学修方略 (L S)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 イ 面接のマナー f 感情面への対応  【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-1 医療面接 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴) を聴取できる。 ④患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 ⑤患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。	青木 伸一郎
2016/06/23 (木) 3時限 13:00～14:30	診療録 (1) 1) 診療録の構成 2) 現症 (全身的所見) 3) 現症 (口腔内・外所見) 4) 口腔内診査 5) 患者背景 (生	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、診療録の構成・記載内容に関する知識を修得する。  【行動目標 (S B O s)】 1. 診療録の構成を列挙できる。 2. 現症の基本的な記載について説明できる。 3. 口腔内診査の項目を列挙できる。	岡本 康裕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/23 (木) 3時限 13:00～14:30	活習慣・社会歴 6) 主訴 7) 現病歴 8) 既往	4. 患者背景の重要性を説明できる。 5. 主訴の定義と歯科特有の主訴を列挙できる。 6. 現病歴の基本的な記載について説明できる。 7. 医科的・歯科的既往歴の重要性を説明できる。 8. 家族歴の重要性を説明できる。  【準備学修項目】 診療録に記載する内容について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 診療記録と診療情報 ア 診療録、医療記録 a 診療に関する記録 (診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 ⑩的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。	岡本 康裕
2016/06/30 (木) 3時限 13:00～14:30	診療録 (2) 1) POS 2) POMR 3) SOAP	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、問題指向型診療録 (POMR) およびSOAPに関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. POSについて解説できる。 2. POMRの記載項目を挙げて各々について説明できる。 3. SOAPの記載項目を挙げて各々について説明できる。 4. 診断思考に基づいた問診 (病歴聴取) を説明できる。  【準備学修項目】 問題指向型診療録 (POMR) について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 診療記録と診療情報 ア 診療録、医療記録 c SOAP (主観的情報、客観的情報、評価、計画)  【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-1 医療面接 ⑥診療録に得られた情報をPOMR (問題志向型診療記録) 形式で記載できる。	岡本 康裕
2016/07/07 (木) 3時限 13:00～14:30	診 察 1) 口腔内診査 2) 診査所見 3) 理学的診査と病態	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科治療における口腔診査に関する知識を修得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔の特異性と口腔病変に対する基本的な考え方を説明できる。 2. 口腔内診査の特性について説明できる。 3. 口腔内診査に用いる基本的な診査法の術式を説明できる。  【準備学修項目】 歯科疾患の診断に必要な口腔内診査について説明できる。  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 1 診察総論 イ 診察の基本  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 10 診察の基本 イ 基本手技 a 視診 b 触診 c 打診 d 聴診  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本	岡本 康裕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/07 (木) 3時限 13:00～14:30	診 察 1) 口腔内診査 2) 診査所見 3) 理学的診査と病態	E-1-1) 基本的診療技能 *⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 F 臨床実習 F-2 診察の基本 F-2-3) 口唇・口腔内状態の診察 ①口唇・口腔内の状態を診察できる。	岡本 康裕
2016/07/14 (木) 3時限 13:00～14:30	症候学(1) 1) 歯の症候 2) 歯髓の症候 3) 根尖歯周組織の症候 4) 辺縁歯周組織の症候 5) 口腔粘膜の症候 6) 口腔の感覚異常(知覚・味覚)	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科疾患の症状・病態に関する知識を修得する。  【行動目標(SBOs)】 1. 齶蝕の症状、診査所見、病態を関連づけることができる。 2. 歯髓疾患の症状、診査所見、病態を関連づけることができる。 3. 根尖性歯周炎の症状、診査所見、病態を関連づけることができる。 4. 辺縁性歯周炎の症状、診査所見、病態を関連づけることができる。 5. 口腔粘膜疾患の症状、診査所見、病態を関連づけることができる。 6. 口腔の感覚異常の診査所見、病態を関連づけることができる。  【準備学修項目】 歯科疾患の診断に必要な口腔内診査について説明できる。  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髓・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ウ 口腔粘膜の疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患 *①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 *③歯髓・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。	遠藤 弘康
2016/07/21 (木) 3時限 13:00～14:30	症候学(2) 歯科における臨床推論(診断)の特徴	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科の臨床推論に関する知識を修得する。  【行動目標(SBOs)】 1. 歯科診断における思考過程について説明できる。 2. 症状、診査所見から診断名を推論できる。  【準備学修項目】 歯科疾患の症状、診査所見、病態を説明できる。  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髓・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3)-(1) う蝕およびその他の硬組織疾患の診断と治療 *①う蝕の症状と診断を説明できる。【検査法を含む】 E-3-3)-(2) 歯髓・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *①歯髓・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療 *①歯周疾患の症状を説明できる。【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 E-3-3)-(4) 象牙質知覚過敏症の診断と治療 *①象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明できる。	多田 充裕
2016/09/08 (木) 3時限 13:00～14:30	平常試験2	【学修方略(LS)】 その他  【場所(教室/実習室)】 302教室	伊藤 孝訓 内田 貴之